

## IAP 執行委員会出席報告

平成 19 年 3 月 10 日  
第 3 部会員 武市正人

### 1. 会議概要

#### 1) 名称

(和文) IAP (InterAcademy Panel) 執行委員会

(英文) IAP Executive Committee Meeting

#### 2) 会期 2007 年 2 月 27 日 ~ 28 日(2 日間)

#### 3) 会議出席者

土居範久副会長、武市正人第 3 部会員(国際委員会 ICSU 等分科会委員)

村田啓子参事官

#### 4) 会議開催地

トリエステ(Trieste, Italy),

TWAS (The Academy of Sciences of the Developing World)

#### 5) 参加状況(参加国数、参加者数、日本人参加者)

IAP 執行委員会メンバー(12ヶ国中9ヶ国)、オブザーバ、ゲスト等、計 25 名

#### 6) 会議内容

##### 日程・議題

2月27日(火)

- Welcome by TWAS: M.H.A. Hassan (Executive Director, TWAS)
- Opening remarks by Co-Chairs: Chen Zhu and H. Alper
- Confirmation of previous EC minutes (Alexandria, Egypt): Co-Chairs
- Matters arising from the Minutes: Co-Chairs
- Secretariat Report: M. Hassan
- Implementation of the IAP Strategic Plan and GA Recommendations: Co-Chairs
- Committees: Co-Chairs
  - Membership
  - Programmes and Strategic Planning
  - Fundraising and Finance
  - Review and Evaluation (Programs/Activities/Initiatives)
  - Publications and Public Relations
- Inter-Organizational matters(G8+5): J.Schnitzer-Ungefug (Secretary General, Deutsche Akademie der Naturforscher Leopoldina)

2月28日(水)

- IAP Programmes and Initiatives - current issues and new opportunities: Co-Chairs
- Evaluation Protocol and Modus Operandus: Co-Chairs
- Interorganizational matters
  - Report on IAC: Outcome of the IAC Board Meeting (Jan. 07): J.Campbell (Executive Director, IAC)
  - Implementation of major recommendations from IAC studies: Co-Chairs
- IAP Statutes and Rules of Procedure: Co-Chairs
- Approval of 2006 Budget; Discussion and approval of 2007 Budget; Financial plan for 2007-2009: M.Hassan
- IAP Statements - current issues and future directions: Co-Chairs
- Other Organizations (EASAC/ALLEA/UNESCO): Co-Chairs
- Applications for IAP Membership/Observer Status: Co-Chairs
- Brainstorming 2008: Co-Chairs
- Next EC meetings: Co-Chairs
- Any other business: Co-Chairs

#### 審議内容・成果等

資料に基づき、議題に従って審議が行われた。要点は以下の通り。

- 2006年12月のIAP総会で決定された戦略計画中のプログラムとイニシアティブの運営経費について、2008年より配分方式を変更することとなった。
- IAPの5委員会の担当を決定した。日本学術会議は戦略計画委員会のメンバーを務めることとなった。
- IAC(InterAcademy Council)との関連を明確にするためにWG設置、パンフレット作成等の活動を行うこととなった。
- IAP加盟国アカデミーの求心力を高めるためにシンポジウム開催などの活動を行うことが提案された。
- 執行委員会メンバー選出方法が改正された。

## 2. 会議における審議内容

IAP は 1995 年に設立された国際的科学アカデミーネットワークで、92 ヶ国のアカデミーが加盟している。IAP は国際的に重要な事項について科学的観点から関連アカデミーを支援して国民と政府に提言することを目的としており、とくに、設立間もないアカデミーや小規模アカデミーがこのような目標を達成できるよう支援している。IAP 執行委員会(Executive Committee)は 2 名の共同議長(Co-Chair)と 11 ヶ国のアカデミー代表から構成され、日本学術会議は 2007 年から 3 年間、前期より継続して執行委員会メンバーとなっている。なお、執行委員会 11 ヶ国の構成は、6 ヶ国は発展途上国から、5 ヶ国は先進工業国から選出されることになっている。現在の執行委員会の構成は

### 共同議長

Professor Chen Zhu (Chinese Academy of Sciences)

Professor Howard Alper

(RSC: The Academies of Arts, Humanities and Sciences of Canada)

### アカデミー

Australian Academy of Science

Bangladesh Academy of Sciences

Academia Brasileira de Ciencias, Brazil

Cuban Academy of Sciences

Academy of Scientific Research and Technology, Egypt

Union of German Academies of Sciences and Humanities

Science Council of Japan

Akademi Sains Malaysia

Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences

Académie des Sciences et Techniques du Sénégal (ASTS)

The Royal Society, UK

である。

今回の執行委員会会合には、Australia、Bangladesh、Senegal の代表は欠席した。会合では、2006 年 12 月の IAP 総会で決定された戦略計画(Strategic Plan)を中心に議論が行われ、また、他のアカデミー組織との関連、2007 年 G8+5 のアカデミー共同声明に関する意見交換が活発に行われた。今期の IAP の委員会担当として、日本は戦略計画委員会のメンバーとなることになった。

2月27日(火)

- (1) IAP 事務局長(TWAS) Hassan 氏から挨拶があり、昨年 12 月の IAP 総会で H.Alper 氏(カナダ)が新たに共同議長に選出されたことの報告があった。

- (2) Alper 新共同議長から、これまで明確さを欠いていた IAP の規定・決定手続き (Rules and Procedures) に関して、各種委員会の設置を通じて明確化していきたいとの抱負が述べられ、IAP のネットワークを活性化してゆくことが課題であること、および IAP が途上国への貢献のためにすべきことの検討に注力すべきであるとの見解が述べられた。
- (3) 共同議長から、2006 年 12 月の IAP 総会で承認された戦略計画の決定事項について確認され、以下のような意見交換があった。
- ・ 決定事項 2: 「IAP はアカデミー間協力のプラットフォームの役割を果たす」に関して、IAP の全メンバーに状況に関する質問状を出し、報告を求めるとの提案があった。
  - ・ 決定事項 3: 「アカデミーの強化」に関して、IAP のアカデミー相互の協力・連携を促すためのプログラムが必要であるとの指摘があり、そのテーマとして、「科学技術教育」には多くのアカデミーの関心が高く、成果を出すことができるという意見があった。
  - ・ 決定事項 5: 「IAP は毎年 1~2 回声明を発出する」ことについては、声明の数を絞ることにより質を維持する必要があるとの指摘があった。
  - ・ 決定事項 13: 「事務局の今後の体制」に関して、事務局長 Hassan 氏から、自らが来年末で引退することと、その後の体制を考える必要性が述べられた。次回の執行委員会に現在の TWAS の共同議長に出席を依頼するとの発言があった。
  - ・ 決定事項 14: 「プログラムの決定手続きの明確化」に関して、共同議長 Chen Zhu 氏から、戦略計画委員会がその機能を担うことになるということと、プログラム、イニシアティブの中には最終目標が不明確なものもあるが、目標を明確化し実行計画を作成すべきであるとの見解が述べられた。共同議長 Alper 氏から、現在の戦略計画は初めての試みであり、抽象的な内容も含まれているが、これらをより具体化し目標を明確化する方向で改訂していくべきであるとの発言があった。また、日本学術会議土居範久副会長から、プログラム等の実施にあたって、IAP、IAC、ICSU の連携も重要であるが、それぞれが独自のミッションを持っていることを尊重すべきであるとの指摘がなされた。
- (4) 共同議長から今期の各委員会の設置案が諮られ、以下のように決定された。なお、すべての委員会は執行委員会へのアドバイザリーグループであることを確認した。また、委員会の構成にあたっては、議長国から他の国のアカデミーにも参加を照会することとした。
- ・ メンバーシップ委員会：キューバ（議長）、エジプト、フランス（前期当委員会議長国）+ 1
  - ・ 戦略計画委員会：イギリス（議長）、オランダ、マレーシア、南ア、日本

- ・ 募金・予算委員会：カナダ（議長）、TWAS、ブラジル、アメリカ、スウェーデン（個人）
  - ・ 評価委員会：イタリア（議長）+2-3
  - ・ 広報委員会：オーストラリア（議長国）、中国
- (5) ドイツの Leopoldina 自然科学アカデミー事務総長 J.Schnitzer- Ungefug 氏から、今年の G8+5 の背景、テーマ選択等につき説明があり、アカデミー共同声明の作成を準備しているとの報告があった。この説明に関して、共同議長 Chen Zhu 氏から、IAP としても事前に準備していくことが望まれること、また、イノベーションは技術移転の問題であり、途上国にとっても重要であるとの発言があった。

2月28日(水)

- (6) IAP プログラム・イニシアティブに関して以下のような意見が出された。
- ・ 共同議長 Alper 氏から、若いアカデミーの強化については、地域アカデミーとの協力が重要であり、とくに「健康教育」と「水」については、IAP と IAMP の協力が必要であるとの意見が述べられた。
  - ・ 事務局長 Hassan 氏から、これまでは各プログラムの予算執行をそのリーダーに任せていたが、今後は提案を評価委員会で審議することにより各プログラムに参加しようとするアカデミー間の競争を働かせるのが望ましいとの考えが述べられた。
  - ・ 共同議長 Chen Zhu 氏から、透明性と競争を高めるとともに、アカデミー間の協力を促すようにする必要があるとの意見があった。
  - ・ 共同議長 Alper 氏から、本年6月までに要望を求め、来年の予算からこの方式を実行するとの提案があり、これを了承した。
  - ・ 競争を取り入れる際には、共同議長はプログラムの継続性に配慮すべきであること、また、プログラムとしてのまとまりも必要であり、戦略計画に基づいて優先度をつけるべきであることが指摘された。
- (7) 他組織との関連で以下のような議論があった。
- ・ IAC との関係に関して IAC 事務総長 Campbell 氏から、IAC ではエネルギー関連のワークショップを開催して報告をまとめていること、およびフォローアップとして地域アカデミーにおけるワークショップを検討していることの報告があった。
  - ・ IAC と IAP の関係について理解が十分でないアカデミーも多いので、広報委員会の最初の仕事として IAC と IAP の両方を解説した冊子を作成してはどうかとの提案があり、全員の賛同を得た。
  - ・ 「女性と科学」など、IAC と IAP で類似のプロジェクトがあるとの指摘があり、IAP、IAC それぞれ2つのアカデミーが参加する IAP-IAC ワーキンググループ（アメリカ、イギリス、カナダ、ブラジル）で検討すること

ととした。

- ・ IAC では「水」プログラムで数年議論しており、IAP のプロジェクトとは重複しないように範囲を決めることになっているとの発言があった。また、ブラジルから、IAP の「水」プログラムでは 53 のアカデミーが参加してワークショップやネットワーク等で成功しているものの、極めて広範なものとなっていることと、IAP から科学的課題を IAC に伝えていくことにより貢献できるとの考えが伝えられた。
  - ・ IAC のプログラムの一つである「感染症」はロシアの G8+4 声明を受けたもので、IAMP と共同で運営グループを作り数ヶ月後にパリで会合を行う方向であるとの報告があった。また、「水」、「感染症」のプログラムのほかにも、「アフリカの大学」、「科学技術情報へのアクセス」というプログラムがあるので、IAP からの参加希望を募る旨の依頼があった。
  - ・ 「科学技術情報へのアクセス」に関しては、OECD の統計がすでにあるが、統計は各国統計部局の問題も大きく、とくに途上国はデータ収集が難しいので、ユネスコの協力を仰ぐべきとの発言があった。
- (8) Statutes and Rules of Procedure(規定と決定手続き)に関する議論の後、執行委員会メンバーの選出にあたって、事前に優先順位をつけることは廃止し、地域的なバランスについては、投票時に共同議長が口頭で呼びかける案を作成し、次回総会に提案することとなった。
- (9) 2006 年決算と 2007-2009 予算の審議に関して、以下のような意見が述べられた。
- ・ 「科学情報へのアクセス」はプログラムにして途上国のために進めることも考えられるが、来年からの変更を踏まえて今年はいニシアティブのままとして進め、年末に再度プロポーザルの提出を求めているかどうかとの提案があり、了承された。
  - ・ 共同議長 Alper 氏から、IAMP は活動資金が得やすい分野であるので、IAP からの支出は今年までとし、来年からは自立を促す旨の発言があった。
  - ・ 事務局長 Hassan 氏から、次回の執行委員会に 2008 年の予算案を提示したいとの発言があった。
- (10) GMO(Genetically Modified Organisms, 遺伝子組み換え生物)について、IAP から声明公表を提案したドイツアカデミーから説明があった。これに関して、英国、ドイツ、TWAS、キューバで委員会を作ることとなった。
- (11) IAP メンバーの求心力強化のために、以下のような提案があった。
- ・ 共同議長 Alper 氏から、次の総会までに IAP のシンポジウムを開催し、若い研究者を招きつつ意義あるものとしたいとの提案があった。また、共同議長 Chen Zhu 氏から、TWAS には若い研究者のための活動資金があるので、TWAS と共同で開催する案が示された。

- ・ オランダアカデミーは来年 200 周年であり、2008 年にはシンポジウムを開催する予定であり、「21 世紀におけるアカデミーの役割」のテーマを掲げることが報告された。
- ・ シンポジウムを開催する際には、戦略計画に沿うように、ICSU 等他の機関と重複しないように、IAP の将来のためのブレインストーミングの場となるようにすべきであるとの発言があった。
- ・ 参加アカデミーの年間イベントカレンダーを作成するという提案があり了承された。

(12) 次回会合

次回は 2007 年 9 月下旬にキャンベラ(オーストラリア)で開催